

# 名詞修飾節の解釈

個体記述型・事態記述型・理由供給型の違いについて

2005（平成 17）年入学

21 世紀プログラム

1NC05024T      野田 薫

2009（平成 21）年 1 月提出

## 目次

1. はじめに.....	1
2. 従来の解釈（個体記述型と事態記述型） .....	2
2.1. 個体記述型について.....	2
2.2. 事態記述型について.....	3
2.3. 個体記述型と事態記述型を決定する要因.....	4
2.3.1. 被修飾名詞の指示性.....	4
2.3.2. 名詞修飾節の event 性.....	5
3. 理由供給型の修飾節.....	6
3.1. 理由供給型.....	7
3.2. 個体記述型・事態記述型・理由供給型.....	8
3.3. 背景、文脈からの理由供給.....	10
3.4. 理由供給型についての観察.....	11
3.4.1. 名詞の指示性と理由供給型.....	11
3.4.2. 修飾節の内容と理由供給型.....	11
3.4.3. 理由供給型と修飾節の指す事態の関係.....	12
3.4.4. 理由供給型と主節の述語の関係.....	13
3.4.5. 理由供給型と被修飾名詞の関係.....	13
3.4.6. 助詞と理由供給型.....	14
3.4.7. その他.....	15
4. おわりに.....	16
5. 参考文献.....	17

## 1. はじめに

日本語において名詞を修飾する形は様々である。(1a)では名詞修飾要素が形容詞の場合で、「青い」が名詞「車」を修飾している。(1b)は「名詞+の」が後ろの名詞を修飾している形である。(1c)は形容動詞「きれいな」が名詞を修飾している。(1d)では動詞の連体形が名詞を修飾している。(1e)は「第50回」という名詞が助詞抜きで名詞「運動会」を修飾している。

- (1) a. 青い車
- b. 病気の原因
- c. きれいな花
- d. 流れる噂
- e. 第50回運動会

このように様々な形がある中でも、ここでは(1d)のような、動詞の連体形を主な部分とする修飾節を取り扱っていく。

動詞の連体形が中心部分となる名詞修飾節はこれまで、その名詞部分の「もの」の個体を選別するものやその「もの」に関わる事態について記述したものとされてきた<sup>1</sup>。例えば(2)のようなものが挙げられる。

- (2) a. 音の出る時計は使わないでください。
- b. 手を差し出した太郎と握手をした。

しかし、(2)の解釈とは異なる解釈を取りうる名詞修飾節がある。

- (3) 運動神経が優れているヒロシは、様々な部から勧誘されている。

(3)では修飾節のかかる名詞が「ヒロシ」と指示性を持ったものであり、特定の人間を示している。そのため、「運動神経が優れている」という修飾節は「もの」を選別するような役目を持っていない。また、運動神経が優れているのは、ヒロシの持っている性質であり、事態ではない。本論

---

<sup>1</sup> 日本語記述文法研究会(編)(2008)では、名詞部分の「もの」の個体を選別するタイプの名詞修飾節を「限定的名詞修飾節」、また「もの」に関わる事態について記述したものを「非限定的名詞修飾節」のように分けている。(日本語記述文法研究会(編)(2008)の3.3節を参照)

では、(3)のような例を含め、名詞修飾節にはどのようなものがあり、それらがどのような特徴を持つのか明らかにしていく。

本論文の構成は以下の通りである。まず次節では従来から指摘されている「ものの個体」を選別する働きを持つ名詞修飾節と、「事態」について述べる働きを持つ名詞修飾節について紹介していく。さらに3節では主節の文の理由にあたるものを供給する働きを持つ名詞修飾節について紹介し、どのような文がそれにあたるのか、観察していくことにする。

## 2. 従来解釈（個体記述型と事態記述型）

### 2.1. 個体記述型について

名詞修飾において修飾語（修飾節）は、それが意味的にかかる名詞の性質について述べたり、その個体を他の個体から選別したりすることができる。これは、名詞修飾の一般的な形だと考えられる。ここでは、そのような名詞修飾節を**個体記述型**と呼ぶことにする。以下の例は、個体記述型の名詞修飾節を含む例である<sup>2</sup>。

- (4) a. よく弾むボールを買ってきた。  
b. 頭の切れる先輩に相談する。  
c. 話の分かる人が好きだ。  
d. 懂れていた職に就いた。  
e. 光る石を拾った。

たとえば(4a)において、「よく弾む」がその直後に来る名詞「ボール」を修飾している修飾節であるが、「よく弾む」とは「ボール」の性質であり、この修飾節が数ある「ボール」の中から「よく弾む」ものを選別している。従って、逆に名詞修飾節を取り払うと、指示する個体や範囲が変わる<sup>3</sup>。

- (5) a. # ボールを買ってきた。  
b. # 先輩に相談する。

---

<sup>2</sup> 以下では、例文中の名詞修飾節部分を、下線で示すことにする。

<sup>3</sup> 意図した解釈とは異なる場合を#とする。

- c. # 人が好きだ。
- d. # 職に就いた。
- e. # 石を拾った。

(5a)の「ボール」はよく弾むものとは限らず、(4a)の「ボール」とは必ずしも同じものではない。つまり(4a)で指示した「ボール」よりも指す範囲が広いと言える。(5)の例は全てそのような関係になっており「先輩」「人」「職」「石」のいずれにおいても(4)のほうがより限定的で、(5)のほうが指す範囲が広がっている。

## 2.2. 事態記述型について

一方、以下の例は、個体記述型としては解釈されないだろう。

- (6) a. そびえ立つ東京タワーを下から見上げる。
- b. 走っている父を追いかける。
- c. どこまでも広がる太平洋を眺めていた。

(6a)の「そびえたつ東京タワー」の解釈としては、「東京タワーの中でもそびえ立っているもの」という解釈は不自然だと思われる。(6b)についても「父の中でも走っているもの」という解釈は不自然である。(6c)も同様で「太平洋のなかでもどこまでも広がるもの」というわけではない。

(6)のような個体記述型でない修飾節は、修飾節で被修飾名詞句が指示するものを選別していないため、それ自体を取り払っても名詞部分の指示する個体あるいはその範囲が変化しない。

- (7) a. 東京タワーを下から見上げる。
- b. 父を追いかける。
- c. 太平洋を眺めていた。

(7)に登場する「東京タワー」「父」「太平洋」のいずれも、(6)で登場したそれらの個体と同じものを指していると判断できる。これらの文における名詞修飾節は、個体を選別、あるいは指定するのに利用されないという点で個体記述型とは明らかに異なる。これらは単純に被修飾名詞の事態を表している。このような名詞修飾節を**事態記述型**と呼ぶことにする。

## 2.3. 個体記述型と事態記述型を決定する要因

### 2.3.1. 被修飾名詞の指示性

修飾節がかかる名詞が、対象が複数想定されるような名詞の場合、個体記述型と解釈することが可能である。たとえば(8a)では複数あるメロンの中でも「よく熟れた」ものを選別している、という解釈ができる。

- (8) a. よく熟れたメロンを買ってこい。  
b. 腐っているミカンを食べてしまった。  
c. ユウタと呼ばれた男はとても背が高かった。

一方、修飾節がかかる名詞が一つしか想定されないものである場合、個体記述型と解釈されることはない。たとえば(6a)では、「数ある東京タワーの中からそびえ立つもの」という選別を行っているわけではない。(6b)や(6c)についても同様で、「多くの父の中でも走っている父」「太平洋の中でも、どこまでも広がる太平洋」という意味で取ることは極めて困難である。これらの例において修飾節は直後の名詞の事態を述べるにとどまっており、これらの名詞修飾節は事態記述型と解釈されるということである。

- (6) a. # そびえ立つ東京タワーを下から見上げる。  
b. # 走っている父を追いかける。  
c. # どこまでも広がる太平洋を眺めていた。

ただし、実際には一つしか存在しないようなものでも、個体記述型として解釈可能なものもある。例えば、(9a), (9b)のように同じ言葉で複数のものを指している場合や、(10a), (10b)のように時間やケースなどで分けて、複数のものとして表現している場合などでは、個体記述型と解釈される。(9b)や(10a)は特に、修飾節+名詞という同じ形で対比されているため、個体記述型と解釈できることがはっきり分かる。(9a)では「僕のかばんについている東京タワー」というのはふつう「東京タワー」とだけ言った場合とは異なるものを指している（ここではふつう指すものは「本物」と表現されている）。「東京タワー」と言ったときにこの文脈では複数のものが想定されるため、その中から「僕のかばんについている」という条件に当てはまるものを選別しているのである。(9b)では「ナポレオン」と言って指せるものが複数あることが明確に見て取れる文である。具体的には「美術館で見た」ものと「教科書に載っている」ものを選別し、比較している。(10a)は「働いているお父さん」も「家でごろごろしているお父さん」も人物としてはどちらも同じお

父さんだが、場面で切り分けて二つの異なるもののように扱っている文である。その二つの場面における「お父さん」を指示して、どちらも好きだ、と言っているのである。(10b)についても同様で、「復興した神戸」が、復興する前の神戸（ここでは「10年前」と表されている）とは別のものとして扱われている。そのうち復興した神戸について選別して述べている文となっている。

- (9) a. 僕のかばんについている東京タワーは、本物より少し色が薄い。  
b. 美術館で見たナポレオンは、教科書に載っているナポレオンより迫力があつた。
- (10) a. 働いているお父さんも、家でごろごろしているお父さんも好きだ。  
b. 復興した神戸は、10年前からは想像もつかないような美しい街になっていた。

つまり、実際に1つしかないか、という点ではなくて、発話者にとって唯一であるか、という点が個体記述型と解釈できるかどうかを分ける場合もあるのである。

(11) まとめ：被修飾名詞の指示性

- a. 被修飾名詞が指示する対象が複数存在する場合、名詞修飾節は個体記述型として解釈可能となる。  
b. 被修飾名詞が指示する対象がその文脈において唯一のものである場合、名詞修飾節は個体記述型として解釈できない。

### 2.3.2. 名詞修飾節の event 性

(12)に挙げた例は全て、事態記述型の名詞修飾節を含んでいるものである。(12a)を見ても、「台風18号が西にそれた。そして台風18号が中国で猛威を振るっている」という関係でしかない。(12b), (12c), (12d)についても同様で、「由美」「太郎」「中村俊輔」の事態について単純に述べている節である、という解釈が可能である。

- (12) a. 西にそれた台風18号が中国で猛威を振るっている。  
b. 結婚して一年になる由美が子供を抱えてたよ。  
c. さっきまでリラックスしていた太郎が、急に真面目な顔をして立ち上がった。  
d. 移籍した中村俊輔は海外でも活躍した。

一方、修飾節で示されていることが事態ではなく、修飾節のかかる名詞(もの)の属性(property)である場合は、事態記述型と解釈することはできない。具体的には、下に挙げた(13)のような場合

である。これらの例は、修飾節が直後の名詞の属性を述べることで、その属性を持つものを選別あるいは指示している。つまり、これらの名詞修飾節は個体記述型と言える。

- (13) a. # よく切れる包丁が欲しいなあ。  
b. # いつ見てもすべっている芸人がまたテレビに出ている。  
c. # すぐ泣くキョウコが珍しく涙を我慢していた。

(13)のような例では修飾節の内容が **property** であるため、事態記述型とは解釈されず、ここでは個体記述型として解釈される。

つまり名詞修飾節が事態記述型と解釈されるのは修飾節の内容が「事態 (event)」のときに限られる、ということである。修飾節が「属性 (property)」を表す場合には、事態記述型とは解釈されない。

(14) まとめ：名詞修飾節の event 性

- a. 名詞修飾節の内容が **event** である場合、その修飾節は事態記述型と解釈可能である。  
b. 名詞修飾節の内容が **event** ではなく **property** である場合、その修飾節は事態記述型とは解釈できない。

### 3. 理由供給型の修飾節

ここまで個体記述型と事態記述型について書いてきたが、そのいずれにも属さないものがあるように感じられる。次の(15)はその一例である。

- (15) a. 気配りのできるユウタはみんなから頼りにされている。  
b. どこにいても目立つアツシは、待ち合わせのときもすぐに見つかる。

(15)の二つの文を見ると、「気配りのできる」「どこにいても目立つ」という修飾節が被修飾名詞の属性を表している。修飾節の内容が属性なので事態記述型ではないが、名詞が特定の人物を指しているため、修飾節での選別を行っておらず、個体記述型でもない。この節では、このような名詞修飾節について見ていくことにする。

### 3.1. 理由供給型

(16a)について見てみると、この文脈では「プールで泳げる」の部分が「数ある夏の中でもプールで泳げる夏」という選別を行っているとは解釈するのは困難である。先に「夏と冬どっちが好き？」と聞かれているので、「夏の中でもプールで泳げるもの」と解釈すると質問と答えが食い違ってしまう。よって個体記述型ではない。また「プールで泳げる」というのは事態ではなく属性を表した節であり、従って事態記述型ではない。このように(16)の名詞修飾節は、前節で見たどの名詞修飾節のタイプにも属さないことになる。

- (16) a. 「夏と冬どっちが好き？」  
「僕は、プールで泳げる夏が好きだな。」
- b. 「ペンギンと白鳥ならどっちが好き？」  
「空を飛ぶ白鳥かなあ」

ではこれら名詞修飾節はどういうものなのであろうか。改めて(16a)を見ると、名詞修飾節「プールで泳げる」はこの文の主節である「僕は夏が好き」の理由にあたるものを供給しているように感じられる。(16b)も同様で、この文脈においては「白鳥（が好き）」の理由にあたるものを修飾節「空を飛ぶ」が提供している。このような名詞修飾節を、ここでは**理由供給型**と呼ぶことにする。

先述の(15)もこの理由供給型に該当するもので「気配りのできる」「どこにいても目立つ」といった名詞修飾節が「ユウタはみんなから頼りにされている」「アツシは待ち合わせのときもすぐに見つかる」の理由にあたるものを提供している。

- (15) a. 気配りのできるユウタはみんなから頼りにされている。
- b. どこにいても目立つアツシは、待ち合わせのときもすぐに見つかる。

理由供給型として解釈が可能なものには、(17)のようなものがある。ひとつの文に理由供給型の修飾節が2つ登場したり、節の埋め込みが行われていたり、その形が多様であることが分かる。

- (17) a. 突然降りだした雨に花子は困った。
- b. 教室で暴れまわっていた太郎は、その日ちょうど機嫌が悪かった先生にこっぴどく叱られた。
- c. 飛び出してきた猫に驚いたトオルはみんなに笑われた。

### 3.2. 個体記述型・事態記述型・理由供給型

理由供給型と呼べるものは個体記述型や事態記述型に当てはまらないというわけではなく、個体記述型や事態記述型の性質を併せ持つものも存在する。

(18) 事態記述型と理由供給型、両方の解釈が可能

- a. 椅子の上に立った弟は、天井に手が届く。
- b. ドレスを着た新婦に思わず見とれる。
- c. 突然降り出した雨には参ったよ。
- d. けんかに負けた弟が可哀想だ。
- e. インフルエンザにかかったタケルは、学校を欠席した。

(18)は事態記述型と理由供給型の性質を持つ例であるが、たとえば(18a)は「椅子の上に立った」ことは「弟」の事態を説明している点で事態記述型と解釈可能であるが、「弟は天井に手が届く」ということの理由にも解釈できる点で理由供給型と解釈できる。(18)に挙げた他の例についても同様で、名詞修飾節が、それが意味的にかかる名詞の事態を説明している解釈も可能であるし、文の述語（述部）の理由にあたるものを提供している解釈も可能である。このように、事態記述型と理由供給型の性質を併せ持つ名詞修飾節が存在する。

続いて、(19)は個体記述型と理由供給型の性質を併せ持つ例を見てみよう。

(19) 個体記述型と理由供給型、両方の解釈が可能

- a. 中身の詰まったスイカが好きだ。
- b. 夜空を覆わんばかりに広がる花火に感動した。
- c. みんなで遊んだ夏休みは楽しかったね。

(19a)を見ると、「中身の詰まったスイカ」の部分の解釈として、「スイカの中でも中身の詰まったもの」という選別を行っている解釈も可能であるし、「中身が詰まっているからスイカが好き」という理由供給型としての解釈も可能である。(19b)は「花火の中でも夜空を覆わんばかりに広がるもの」という解釈と「夜空を覆わんばかりに広がったから感動した」という解釈の2つが考えられる。(19c)についても、「今までの夏休みの中でもみんなで遊んだもの」が楽しかった、という解釈と、「夏休みはみんなで遊んだから楽しかった」という解釈が考えられる。このように、個体記述型と理由供給型の性質を併せ持つ名詞修飾節が存在する。

(20)のように、修飾節がかかる先の名詞が「者」「方」などの場合、修飾節は個体記述型とは解釈できる。

- (20) a. 廊下を走った者は正直に名乗り出なさい。  
b. 私の母を見つけた方には百万円を差上げます。

(20a)では複数の中から廊下を走った一名を、(20b)では複数の中から母を見つけた一名を選別する働きを持っている。(20)に挙げたような「者」「方」などの名詞は、修飾節を取り払ってしまうと(21a), (21b)のように意味が通じなくなる。このような性質を持つ名詞は、それ自体が個体を指示する機能を持たないため、何を指しているのか選定する働きを名詞修飾節によって常に行うこととなる。そのため(20)のような例では名詞修飾節は個体記述型と解釈できると考えられる。

- (21) a. \* 者は正直に名乗り出なさい。  
b. \* 方には百万円を差上げます。

また、名詞修飾節の解釈については、文脈に依存するところが大きい。(22)の例文を見ると後半の文は全く同じであるが、(22a)では「北京オリンピックで金メダルを取った人」ということを説明する文で、北島の事態について説明する事態記述型の修飾節となっている。一方、(22b)では「北島」と言われて聞き手の複数の北島が浮かんでいるため、改めて選別をしてあげるという文脈であり、この場合は個体記述型の修飾節となっている。

- (22) a. 「北島って、だれ？」  
「知らないの？北京オリンピックで金メダルを取った北島康介！」  
b. 「キタジマって、どのキタジマ？」  
「コウスケだよ。北京オリンピックで金メダルを取った北島康介！」

このように文脈や背景によって解釈が変わる可能性がある。次のような例も同様である。

- (16) a. 「夏と冬どっちが好き？」  
「僕は、プールで泳げる夏が好きだな。」  
b. 「ペンギンと白鳥ならどっちが好き？」  
「空を飛ぶ白鳥かなあ」

(16a)のような例では、「夏と冬どっちが好き？」という問いかけがなければ理由供給型と個体記述型（あらゆる夏の中から「プールで泳げる夏」を選別する意味で）の2つに取れるが、「夏と冬のどっちが」と聞かれている文脈が、その後に来る「夏」が一般的に夏を指すものと想定させる。そのため理由供給型の解釈に限定されるのである。(16b)でも同様に、「空を飛ぶ」という節が個体記述型ではなく理由供給型だということが分かる。このように、複数の解釈があるものでも、文脈によって限定されることがしばしばある。このように、名詞修飾節の解釈は文脈によって変化するものである。

### 3.3. 背景、文脈からの理由供給

ここまで示してきた例では、理由供給型の修飾節が述部の理由となるものを提供していた。しかし、そのような例ばかりではなく、理由が必要になるような文でも修飾節が存在しない、というケースもある。そのようなケースでは、文脈や背景から理由を補って文意を解釈することになる。(23a)のような文では、述語に対して「なぜ？」という疑問が残る。理由を要求する述語に対して、理由の供給が行われるべき名詞修飾節で説明がなされていないためである。このようなケースでは、しばしば文脈から理由の供給が行われる。(23b)はその例である。

(23) a. ?ユミは写真に大笑いした。

b. トモエの部屋には幼い頃ユミと撮ったツーショットが大切そうに飾られている。トモエにとってユミと一緒に遊んだ記憶は宝物のようなものであったが、部屋に入ってくるなりユミは写真に大笑いした。「なにこれ、こんなのまだ大事にとってんの？」

また、(24a)は「蠅はうっとうしいもの」というのが一般的であるためか、(24b)のように修飾節を取り払っても違和感をあまり生じない。これは(23a)とは異なる性質である。このケースでは名詞修飾節でも文脈でもなく、背景から理由の供給が行われている。

(24) a. 太郎は近くを飛び回る蠅にイライラしていた。

b. 太郎は蠅にイライラしていた。

### 3.4. 理由供給型についての観察

#### 3.4.1. 名詞の指示性と理由供給型

理由供給型と解釈されるかどうかは、名詞が唯一であるかどうかによって左右されない。これは個体記述型とは性質が異なるということである。

(25) 想定されるものが一つだけである名詞における理由供給型

- a. 金メダルを取った谷亮子に感動した。
- b. ロケットの打ち上げに成功したアメリカは賞賛された。
- c. おいしい水が飲める熊本県に住みたい。
- d. 速く走れるイチローがうらやましい。

(26) 想定されるものが複数ある名詞における理由供給型

- a. 飛びかかってきた犬に驚いた。
- b. 襲い掛かってきたカラスに恐怖した。
- c. 頭の切れる友人がうらやましい。
- d. 中身の詰まったスイカが大好きだ。

(25a)の「谷亮子」は人物であり、複数のものが想定される文脈でもない。この例において「金メダルを取った」という名詞修飾節が、北島康介に感動した理由を提供している。(25)に挙げた他の例でも「アメリカ」「熊本県」「イチロー」などの被修飾名詞が唯一のものと受け取れる文で、かつ「ロケットの打ち上げに成功した」「おいしい水が飲める」「速く走れる」といった修飾節の内容が、主節の理由に相当している。一方(26a)に挙げた例を見ると、「犬」という、複数のものが想定される名詞が被修飾名詞となっている。この文でも「飛びかかってきた」という名詞修飾節が、犬に驚いた理由を提供している。(26)の他の例を見ても、「カラス」「友人」「スイカ」という複数のものが想定される名詞が被修飾名詞となっているが、それぞれ「襲い掛かってきた」「頭の切れる」「中身の詰まった」という名詞修飾節が主節の理由に相当するものを提供している。以上のことから、被修飾要素である名詞の指示性が、名詞修飾節が理由供給型として解釈されることに関与しないことがわかる。

#### 3.4.2. 修飾節の内容と理由供給型

理由供給型と解釈されるかどうかは、名詞修飾節が表す内容が事態か属性かということに左

右されない。これは事態記述型とは性質が異なるということである。

(27) 名詞修飾節の内容が **event** の場合における理由供給型

- a. 後ろ足だけで立っているレッサーパンダに驚いた。
- b. 派手に横転した車にショックを受けた。
- c. 大事な試合で得点したロナウジーニョに感心した。
- d. 漢字を読み間違えた総理大臣が野党に批難された。

(28) 名詞修飾節の内容が **property** の場合における理由供給型

- a. 遠足に行ける新一年生がうらやましい。
- b. 甘い香りがする紅茶が好きだ。
- c. 人が多すぎる東京には住みたくない。
- d. 彼は同じ誕生日に生まれた坂本龍馬を尊敬している。

(27a)の「後ろ足だけで立っている」という名詞修飾節は **event** を表している。この例においてこの修飾節は、そのレッサーパンダに驚いた理由を提供している。(27)に挙げた他の例でも「派手に横転した」「大事な試合で得点した」「漢字を読み間違えた」などの **event** を表す名詞修飾節が、主節の理由に相当している。一方(28a)に挙げた例を見ると、「遠足に行ける」という名詞修飾節が被修飾名詞の **property** を表している。この文でもその修飾節「遠足に行ける」が「新一年生がうらやましい」という主節の理由にあたるものを提供している。(28)の他の例を見ても、「甘い香りがする」「人が多すぎる」「同じ誕生日に生まれた」という名詞修飾節が、被修飾名詞の **property** を表している。そして、それぞれの名詞修飾節が主節の理由に相当するものを提供している。以上のことから、名詞修飾節が **event** を表すか **property** を表すかということが名詞修飾節が理由供給型として解釈されることに関与しないことがわかる。

### 3.4.3. 理由供給型と修飾節の指す事態の関係

さらに、理由供給型と解釈されうるかどうかを分かつ他の要因として、修飾節の指す事態がある。(この項で扱うのは修飾節の中で示す内容が事態 (**event**) の場合の話である)(29)に挙げた例では、文中の他の要素はそのまま、修飾節の中身のみを変化させてみた。理由供給型と解釈されるかどうか修飾節のかかる名詞によって左右されるケースが存在することがはっきりと分かる。

- (29) a. 派手に転んだユカは傷だらけだった。  
b. # スーパーで見かけたユカは傷だらけだった。

(29a)はカラスが飛んできたことがびっくりした原因となっており、理由供給型と言える。（「ユカは傷だらけだった。なぜなら派手に転んだから」という言い換えが可能である）(29b)については、スーパーで見かけたことが傷だらけになった原因とは言いがたく、理由供給型とは言えない。そしてこの場合は、事態記述型としての解釈に限定される。

#### 3.4.4. 理由供給型と主節の述語の関係

ある修飾節が理由供給型と解釈されうるかどうかを分かつ一つの要因として、主節の述語がある。(30)に挙げた例では、修飾節と名詞はそのまま、それより後ろの要素を変化させてみた。理由供給型と解釈されるかどうかは述部によって左右されることは一目瞭然である。

- (30) a. 頭の切れる先輩がうらやましい。  
b. # 頭の切れる先輩がうらやましがっていた。  
c. 中身の詰まったスイカが好きだ。  
d. # 中身の詰まったスイカが転がっている。

(30a)では、うらやましいポイントが「頭が切れるところ」ということになる。「うらやましい。なぜなら頭が切れるから」という具合に理由を述べているのである。それに対して(30b)では「頭が切れる」ことは「うらやましがっている」理由とは考えにくい。

#### 3.4.5. 理由供給型と被修飾名詞の関係

また、理由供給型と解釈されうるかどうかを分かつ他の要因として、修飾節のかかる名詞がある。（この項で扱うのは修飾節の中で示す内容が属性（property）の場合の話である）(31)に挙げた例では、文中の他の要素はそのまま、修飾節のかかる名詞のみを変化させてみた。(31b)では(31a)よりも個体記述型としての解釈が色濃く出ているように感じられる。理由供給型と解釈されるかどうかは修飾節のかかる名詞によって左右されるケースが存在することが分かる。

- (31) a. 頭の切れる山田先輩と仲良くなりたい。  
 b. # 頭の切れる人と仲良くなりたい。

### 3.4.6. 助詞と理由供給型

下のように様々な格の名詞にかかる修飾節が理由供給型と解釈できるため、名詞の格による制限は無いものと考えられる。

- (32) ガ格 教室で暴れまわっていた太郎が、先生に叩かれた。  
 (33) ニ格 太郎は、飛びかかってきた猫に驚いた。  
 (34) ヲ格 太郎は、体調が悪そうにしている友人を介抱してあげた。  
 (35) ハ格 悪口を言われて怒った太郎は、窓ガラスを割った。  
 (36) デ格 バスと迷ったが、早く到着する地下鉄で向かうことにした。  
 (37) ト格 買い物には、とても外に出たそうにしている弟と行くことにした。

ところが、「によって」「ことで」「おかげで」のような(複合)助詞が被修飾名詞に付加することが、理由供給型と解釈されるかどうかを左右する要因として働くことがある。

- (38) 「によって」 コウイチが努力したことによってアイも助かった。  
 (39) 「ことで」 平野が間に入ってくれたことで丸く収まった。  
 (40) 「おかげで」 手伝ってくれた吉田のおかげで間に合った。  
 (41) 「せいで」 遅れてきたショウタのせいで大会に参加できなかった。

#### (42) それぞれの比較

- a. 急いでやってきた山田のおかげで助かった。  
 b. 急いでやってきた山田に助けられた。  
 c. 急いでやってきた山田によって助けられた。  
 d. 山田が急いでやってきたことで助かった<sup>4</sup>。

---

<sup>4</sup> 「ことで」は、主節の述語が「変化」を表していないと使えない。

- (i) a. 坂田が遅れてやってきたことで間に合わなくなった。  
 b. \*坂田が遅れてやってきたことで間に合わなかった。  
 (ii) a. 坂田が遅れてやってきたことで駄目になった。

- e. 降りだした雨のせいで今日の試合は中止になった。

(42a)は「急いでやってきた」が「助かった」理由になっている。さらに、山田は助けるために急いでやってきたという解釈ができる。(42b)は「急いでやってきた」が「助けられた」理由になっていると解釈することも可能だが、急いだこととは無関係で、単純に「山田は急いでやってきた。そして山田に助けられた」という関係だと解釈することもできる。この場合は「急いでやってきた」は事態記述型の修飾節ということになる。(42c)は、より「急いでやってきた」ことが「助けられた」ことと無関係な解釈に傾くように感じられる。つまり、事態記述型としての解釈が意識されるということである。(42d)は、「急いでやってきた」ことが「助かった」の直接的な理由となっているという解釈がすぐに浮かぶ。これは理由供給型と言えるだろう。(42e)の「せいで」は上の例とは逆で、被害を表す言葉である。

### 3.4.7. その他

上記で取り扱った事柄とは別に、次のようなことも観察された。「～に育つ」「～になる」を用いた文では、被修飾名詞が「すでにそうである」もの場合は名詞修飾節を取り払うと意味が通じなくなるか、違和感を生じる。

- (43) a. よくできた息子に育ってくれて嬉しいよ。  
b. 頼れる人間になったなあ。  
c. 煙草を吸える大人になりたい。  
d. ひたむきな努力の結果、頼れるエースに育った。

(43a)において、息子は育つ以前も息子であるため意味が通じない。また(43b)においては「頼れるようになった」ことを述べる文であり、名詞修飾節「頼れる」を取り払うと意味が全く変わってしまう。またそれだけでなく、人間以外のものが人間になるというのは通常不可能であるため、違和感を伴う文になる。(44a), (44b)のように名詞修飾節を取り払うと違和感を生じる。一方、(43c)の「煙草を吸える」というのは「大人」の一般的な属性であり、(43d)の「エース」という存在も一般的に「頼れる」ものである。このような例では(44c), (44d)のように名詞修飾節を取り払って

---

b. \*坂田が遅れてやってきたことで駄目だった。  
(42d)の例の「助かった」もピンチが解消した、という変化を表しているために違和感なく使えるものと考えられる

も文意がほとんど変わらない。

- (44) a. \* 息子に育ってくれて嬉しいよ。  
b. # 人間になったなあ。  
c. 大人になりたい。  
d. ひたむきな努力の結果、エースに育った。

#### 4. おわりに

本論文では、名詞修飾節の解釈の多様性に着目し、それぞれの用法の特徴を調べた。名詞修飾節が複数の解釈を持った意味のあいまいな文や、文以外の要素によってその意味が決定するケースが見られるなど、その複雑さを垣間見ることができた。本論文のポイントとして、名詞修飾節の内容が主節の理由となるものを供給する場合があることを指摘した。理由供給型と解釈できるかどうかを何が決定しているのか、そのメカニズムは明らかにされなかったが、理由供給型と解釈できるかどうかには様々な要因が絡み合っていることを観察の中から示した。理由供給型のように修飾節の解釈が主節と作用し合う関係は非常に興味深いものであり、これからも研究対象となり続けてほしいテーマである。

## 5. 参考文献

- 阿部泰明 (1994)「連体修飾節の諸問題」田窪行則(編)『日本語の名詞修飾表現』:153-171. 東京: くろしお出版.
- 江口正 (2000)「階層構造から見た従属部の内側と外側」『日本語学』19(5): 130-138.
- 加藤重広 (2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』東京: ひつじ書房.
- 金水敏 (1987)「時制の表現」山口明穂(編)『国文法講座 6 時代と文法—現代語』: 280-298. 東京: 明治書院..
- 高橋太郎 (1979)「連体動詞句と名詞のかかわりあいについての序説」言語学研究会(編)『言語の研究』: 75-172. 東京: むぎ書房.(高橋太郎(1994). pp.277-433.に再録)
- 高橋太郎 (1994)『動詞の研究 動詞の動詞らしさの発展と消失』東京: むぎ書房.
- 田窪行則 (1987)「統語情報と文脈情報」『日本語学』6(5): 37-48.
- 寺村秀夫 (1975)「連体修飾のシンタクスと意味 —その1—」(『日本語・日本文化』4. 大阪外国語大学留学生別科 (寺村秀夫 (1993) pp.157-207 に再録.)
- 寺村秀夫 (1977a)「連体修飾のシンタクスと意味 —その2—」『日本語・日本文化』5. 大阪外国語大学留学生別科 (寺村秀夫 (1993) pp.209-260 に再録.)
- 寺村秀夫 (1977b)「連体修飾のシンタクスと意味 —その3—」『日本語・日本文化』6. 大阪外国語大学留学生別科 (寺村秀夫 (1993) pp.261-296 に再録.)
- 寺村秀夫 (1978)「連体修飾のシンタクスと意味 —その4—」『日本語・日本文化』7. 大阪外国語大学留学生別科 (寺村秀夫 (1993) pp.297-320 に再録.)
- 寺村秀夫 (1993)『寺村秀夫論文集 I —日本文法編—』東京: くろしお出版.
- 仁田義雄(編)(1995)『複文の研究(上)(下)』東京: くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会(編)(2008)『複文』現代日本語文法 6. 東京: くろしお出版.
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法—改訂版—』東京: くろしお出版.
- 益岡隆志 (1997)『複文』東京: くろしお出版.
- 南不二男 (1974)『現代日本語の構造』東京: 大修館書店.
- 三宅知宏 (1995)「日本語の複合名詞句の構造—制限的／非制限的連体修飾節をめぐって」『現代日本語研究』: 49-66. 大阪大学文学部日文学科現代日本語学講座.
- 宮島達夫・仁田義雄(編)(1995)『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』東京: くろしお出版.